祖母に教わる介護と税金

仙台市立五橋中学校１年　　宮本　瑚舶

私には祖母がいる。いつも明るくて優しくて、元気な祖母だ。新型コロナウイルスが流行する前は、一人で暮らす祖母の家によく遊びに行っていた。最近はそんな機会もめっきり無くなってしまい、寂しく感じていた、そんなある日のことだった。母が珍しく真面目な顔でこういった。

「あのね、急な話なんだけど、おばあちゃん施設に入ることになったから。」

「なんで？あんなに元気だったのに。」

「しょうがないのよ。認知症、ひどくなっちゃったんだから。」

母の話によれば祖母は一昨年から年々物忘れがひどくなってきていたが、最近になって一人では生活できないほど症状が進行したという。

「病院の先生が、もう家族が面倒を見られる状態じゃないって。夜中も徘徊するから、ちゃんとしたところで管理してもらわないとダメなんだって。仕方なく介護老人保健施設っていう所にお願いすることにしたの。」

介護老人保健施設。あまり聞きなじみのない言葉だったが、残念ながら祖母が一人で暮らせないということはわかった。だがその施設というところは、どれだけの費用が必要なのか、急に心配になった。介護にはお金がかかると聞いたことがある。ちらりと覗いた施設のパンフレットには結構な金額が載っていた。だから、「ねぇ、お金大丈夫なの？施設って高いところなんじゃないの。」母に率直に訊いてみた。しかし答えは意外なものだった。

介護保険、とよく耳にしても、実際にどんなものかわからなかったが、区役所に介護保険の申請をすると、支払いの限度額が収入に応じて設定され、必要以上の請求は求められないらしい。祖母の場合、月に十万円もあればお釣りがくるという。更に高額介護サービス費といって、利用者負担額の半分が、申請により本人に返金されるというおまけつきだ。その他、身の回りの品々を自分で買い揃えたり補充しても、祖母の年金で十分やりくりできるとわかった。そして更に調べてみれば、介護保険とは、全額が保険加入者の保険料ではなく、半分は国や自治体からの補助、つまり税金が使われているということだった。

私はこれまで税金というと、ニュースで悪者のように言われる消費税や所得税の印象が強かった。しかしよく考えてみれば税金は、私たちの最も身近なものすべてに使われている。少し思いつくだけでも、道路、警察に消防署、学校や教科書、昨日病院にかかった治療費も税金だ。それらはみんながしっかり働いて、自分たちの生活のために少しずつ納めたお金から成り立っている。税金がなければ私たちは道路一つだって作れない。祖母も私たちみんなも、お互いに助け合って暮らしていることを忘れないでいよう。そして大人になったら、今度は自分が社会に恩返しの意味で、しっかり納税しようと思う。